

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

北アルプスの里にもアジサイが咲き始めた、特に青や紫の花は目立ち、梅雨の時期には水滴を乗せた姿が里の魅力を引き立たせる。雨にぬれて咲く紫

の花、日の光にきらめく情緒、それを紫陽花の三文字で表現する日本語の素晴らしさ。アジサイの花で里を埋め尽くす取り組みが更に活発に展開してほしいと期待している。

6月下旬、大町商工会議所で開催された北アルプス日中友好協会の総会に初めて出席する機会があった。白馬から大勢のメンバーが参加。事務局の発案で、総会前に大町市内の「ギャラリー・いーずら」で開催中の、西山保さんの中綱湖を中心に撮影した「トンボと里の四季」の写真展を見学する。西山さんは、元白馬村役場職員

で私の上司として「人としての有り様」、「仕事に向かう考え方」を熱心に指導いただいた方だ。在職中から、写真に興味がある事を知り、毎年素敵な写真を使った年賀状も受け

取っていた。40年以上写真を撮り続けた力作に強い感銘をいただいた。写真について尋ねると「まずは、自然の営みを知る事。長い積み重ね、繰り返し、撮りたい瞬間を教えてください」と。今回の展

示は、所蔵作品のほんの一部なのだろう。この貴重な観光資源を大町市が活用してはと

協会に名称変更しての総会。白馬村観光局福島洋次郎事務局長の「白馬村のアジア観光誘致戦略」の記念講演は出席者の学びの場となった。話の内容から、観光最前線で活躍する場数の多さが、頼

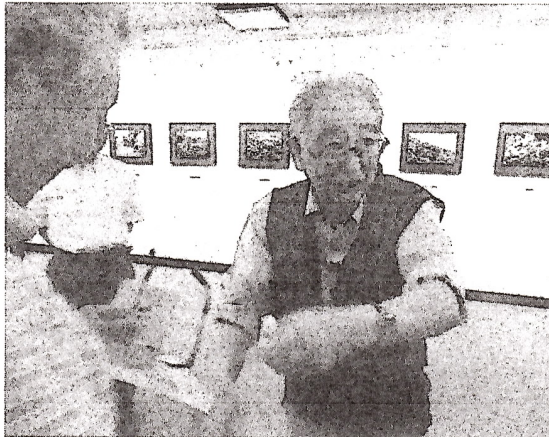
れる人材として成長する姿が強く伝わってくる。観光戦略は、他の地域と同じことを行っても効果は期待できない。現状を分析して、世界の動向を見極める人材が不可欠だ。日本

でも北海道と九州では多くの異なる考えがあるように、中国も広大な国土を有する国だ。首都クラスの大都市が多数存在し、都市ごとに嗜好が異なるマーケットに対応する考え方は、出席者に海外で

外国人旅行者の受け入れには人材の育成と地域魅力の創造が強く求められている

の戦略の難しさを伝えた。白馬に訪れた外国人から、雪質が良いとの回答に続き、出合う地元の人が良いとの回答は、100年以上に渡るスキー文化が育んだ財産だ。温かく迎える人を育てることが大

切この話は、何処でも取り組める内容だからこそ、大北地域全体で、観光施策の展開を論じてほしいと、感じた講演でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



地域に密着し、見続ける大切さを実践する西山さん。これからの撮影が楽しみだ